

# 北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会  
 会長 門前 智  
 事務局長 齋藤 昇一  
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>  
 印刷所 ㈱ 有伸商会  
 TEL (011)814-6211

## 第27回 読書感想画中央コンクール 第3回 全道コンクール 審査終了

第27回読書感想画中央コンクール・第3回読書感想画全道コンクールの審査が、1月9日(土)、毎日新聞社北海道支社で行われました。応募作品は763点、昨年より80点あまり増えました。小学校低学年・小学校高学年・中学校の3部門それぞれから最優秀賞、優秀賞の作品が、高等学校を加えた4部門それぞれから優良賞、奨励賞の作品が、また学校種別に学校賞が選ばれました。

### 最優秀賞



「ぞうのすべりだいたのしいな」 札幌市立本郷小学校1年  
 『ワニくんとパーティーにいったんだ』 藤島 亜衣  
 (ジュティス・カー 作・絵)



「星空へ向かって」 札幌市立藤野小学校5年  
 『星空点呼 折りたたみ傘を探して』伊田 紗雪  
 (嘉成晴香 作)



「『あこがれ』の鯨」 東川町立東川中学校3年  
 『万次郎 地球を初めてめぐった日本人』 村田 遼太郎  
 (岡崎ひでたか 作)

# 最優秀賞・優秀賞・優良賞 受賞者一覧

## 《最優秀賞》

※ぞうのすべりだいたのしいな	札幌市立本郷小学校	1年	藤島 亜衣
※星空へ向かって	札幌市立藤野小学校	5年	伊田 紗雪
※「あこがれ」の鯨	東川町立東川中学校	3年	村田 遼太郎

## 《優秀賞》

※さびしい赤おに	岩見沢市立栗沢小学校	2年	佐藤 優太
※こわいかえり道	函館市立本通小学校	2年	堀田 彩奈
※笑顔のレシピ	函館市立本通小学校	6年	上原 咲和
※海からだして	函館市立石崎小学校	5年	金澤 芽依
※虹	札幌市立藻岩中学校	1年	及川 明音
※リフカの願い	札幌市立青葉中学校	2年	吉田 紘子

## 《優良賞》

わたしのひまわりばたけ	旭川市立旭川第一小学校	1年	小檜山 慈理
くりさがし	札幌市立鴻城小学校	2年	穴戸 彪琉
たのしいパーティー	函館市立本通小学校	2年	高原 みつき
※へびのすべりだいにのったんだ	札幌市立鴻城小学校	3年	趙 在音
※北海道たんけん	札幌市立元町小学校	4年	吉田 そら
北海道の命がけのおひょうつり	札幌市立元町小学校	4年	小田島 愛海
まつうらたけしろうと船と仲間	札幌市立元町小学校	4年	池野 梢恵
やまなしがおちてくる海の上	札幌市立鴻城小学校	6年	寺崎 愛菜
※過去のつらさ	斜里町立斜里中学校	2年	鈴木 楓華
はじめての「なかよし」	斜里町立斜里中学校	2年	佐竹 未菜
夜空の向こう	札幌市立藻岩中学校	2年	神山 桜奈
仮面	北海道北広島西高等学校	1年	工藤 里美
もののけ	北海道北広島西高等学校	1年	立野 和美

## 《学校賞》

○小学校の部	函館市立本通小学校	○中学校の部	札幌市立藻岩中学校
○高等学校の部	該当校なし		

※=全国行き作品

# 奨励賞 受賞者一覧

## 奨励賞(小低)

札幌市本郷小	1年	中山 創太	同上	1年	高橋 李玖	同上	1年	智田 詩音
同上	1年	山谷しずく	同上	1年	安部未莉亜	同上	1年	上野 蒼真
同上	1年	岩本 悠那	同上	1年	一柳 瑠来	同上	1年	澤田 怜奈
同上	1年	齋藤 雫	札幌市本郷小	1年	小林 幸生	同上	1年	栗田 侑奈
同上	1年	佐々木美優	同上	1年	藤崎希乃海	同上	1年	千葉 春翔
同上	1年	佐々木花音	函館市本通小	1年	田中麻那生	同上	1年	寺田はるか
同上	1年	西谷 優羽	同上	1年	清川 幸輝	同上	1年	山川 大晴
同上	1年	橋本モリカ	同上	1年	小柏孝太郎	室蘭市本室蘭小	1年	福岡 美咲
同上	1年	谷 麻央	札幌市鴻城小	1年	中川 璃子	同上	1年	小泉 来夢
同上	1年	齋藤 勇太	同上	1年	太田 千翔	同上	1年	豊田 花音
同上	1年	藤谷 圭人	同上	1年	佐久間紹成	同上	1年	村上 璃緒
同上	1年	清野 乎杏	同上	1年	渡邊 奏大	同上	1年	和田 琉叶
同上	1年	小木ゆう花	同上	1年	赤塚 雪菜	同上	1年	鈴木 愛徠
同上	1年	佐藤梨緒奈	同上	1年	前田 優菜	旭川市旭川第一小	1年	藤田 大地
同上	1年	岩瀬 悠希	室蘭市本室蘭小	1年	菅原 大翔	函館市本通小	2年	高木安佳莉
同上	1年	國島 来斗	函館市石崎小	1年	濱 利光	岩見沢市栗沢小	2年	平田 愛梨
札幌市上白石小	1年	遊佐 哉太	札幌市鴻城小	1年	宮田 夢	同上	2年	杉村 颯紀
同上	1年	児島 実咲	同上	1年	河端 椎奈	同上	2年	杉本 雪乃
			同上	1年	高木 董	同上	2年	森木 彩羽

札幌市鴻城小	2年	藪田 彩音	同上	2年	北村 泉穂	同上	4年	榎波 祐人
同上	2年	沼山 由羅	札幌市山の手南小	2年	穂刈 桜	同上	4年	大川原詩音
函館市本通小	2年	中野 優月	函館市本通小	2年	伊波 佑城	同上	4年	菊地 梨桜
同上	2年	平沢 勇巳	札幌市北白石小	2年	堤 和香	同上	4年	長井 綾音
同上	2年	櫻井 聖	函館市本通小	2年	武田 惇羽	同上	4年	千葉 虎我
岩見沢市栗沢小	2年	長嶋 小春	同上	2年	入船えうにか	同上	4年	北山 琉悟
岩内町岩内西小	2年	山崎 明那	同上	2年	長崎 純子	旭川市神居東小	4年	老 幸音
札幌市鴻城小	2年	桐山 大樹	同上	2年	高原あかり	函館市石崎小	4年	佐々木桃子
同上	2年	古宇田哲臣	札幌市鴻城小	3年	大宅 美桜	函館市本通小	5年	武田 悠羽
同上	2年	松川 萌笑	旭川市愛宕東小	3年	穴吹 倫士	月形町月形小	5年	上葛 日和
同上	2年	澤谷 心晴	旭川市近文第一小	3年	遠上 力生	函館市石崎小	5年	佐々木桜子
同上	2年	鈴木 心彩	札幌市鴻城小	3年	若宮 汀奈	同上	5年	濱 宏光
同上	2年	浅野ひより	同上	3年	堀江 優月	札幌市鴻城小	6年	杳内 丸仁
同上	2年	増田 騎太	同上	3年	河端 大和	同上	6年	安栄 史弥
岩内町岩内西小	2年	円成 心美	同上	3年	杵淵 湊	同上	6年	伊藤くる実
同上	2年	林 あかね	同上	3年	智田 勇吹	同上	6年	西村 心佑
函館市本通小	2年	齋藤 花純	岩見沢市栗沢小	3年	小山 里緒	同上	6年	森井 未侑
同上	2年	林 武慶	函館市本通小	3年	奥田 陽	同上	6年	戸間替岳斗
同上	2年	森川亜麻音	函館市石崎小	3年	松井 琢徒	同上	6年	石垣 日菜
同上	2年	平田 一朗	同上	3年	小石 聖夜	<b>奨励賞(中学)</b>		
同上	2年	中山 航生	函館市高丘小	3年	坂本 佳美	斜里町斜里中学校	1年	古館 春花
同上	2年	斉藤 乃音	<b>奨励賞(小高)</b>			同上	2年	橋本 幸奈
同上	2年	荒巻 愛羽	札幌市元町小	4年	三木 愛良	小樽市長橋中学校	1年	金澤 美月
同上	2年	竹田 亥吹	同上	4年	高橋 樹奈	札幌市藻岩中学校	2年	上口みなみ
札幌市鴻城小	2年	上村 弘二	同上	4年	木戸 萌叶	同上	2年	藤田 鈴花
同上	2年	佐藤 夕莉	同上	4年	飯法師雅斗	<b>奨励賞(高校)</b>		
同上	2年	三島 遙	同上	4年	山口 紗楓	大樹高	1年	佐藤 萌絵
同上	2年	外山 凜	同上	4年	佐藤 孝介	北広島西高	3年	秋山 紗希
函館市本通小	2年	長島 雄一	同上	4年	敦賀 晴紀			
同上	2年	熊谷 真歩	同上	4年	平野 優太			

第27回読書感想画中央コンクール・第3回全道コンクール [総評]

## 感動を自分らしい世界で一枚の絵に

審査委員 (北海道造形教育連盟) 藤 森 久 美  
(札幌市立新陵東小学校 校長)

今年で3回目となる全道コンクールには、前年度を上回る763点の素敵な作品が寄せられました。本展関係者の皆様の多大なるご尽力のたまものと、心より敬意を表します。

さて、本展は「読書によって得た感動を絵画に表現することをとおして、児童生徒の読書力、表現力を養うとともに、読書活動の振興を図る」ことを趣旨としています。

審査基準は、以下の3点です。①本から受けた感動や喜びなど、読み手の心が絵に表現されているか。②読み手の日常生活や本を読んで感じたことがどこかににじみ出ているか。③絵の表現に工夫のあとがみられるか。これらの3つの審査基準のもと、厳正に審査を行いました。審査の際には、児童生徒の皆さんが苦勞したことや感銘を受けたことなどを書いたメッセージを読ませていただきました。一枚一枚の絵に表現したい思いを知ることができ、審査の参考にさせていただきました。

小学校低学年の作品は、本を読んで心に残った場面がのびのびと描かれていました。子どもの思いが、いろいろな線や色で表現され、伝わってきました。高学年の作品は、表現したいことを構図や色彩などで工夫されて描かれていました。中学校、高等学校の作品は、感動や対象への思いなどが、構図や色彩を通して繊細に表現され、素晴らしいと感じました。

私自身、子どもの頃から本を読むことが大好きで、小学生の時は、毎月送られてくる世界児童文学全集を心待ちにしていました。本との出会いは、感動を与えてくれるとともに自分の世界を広げてくれます。

今後も、いろいろな本と出会い、その時に受ける感動を自分らしい形や色で表現された作品が出品されることを願っています。



## 第48回 北海道学校図書館研修講座 日時：2016.1.6 会場：かでの2・7

## ▶▶▶ 新たな価値を創造する「学校図書館」を求めて ◀◀◀

北海道学校図書館協会 理事長 黒澤敏行  
(札幌市立琴似中学校 校長)

「松の内から研修!?しかも3日連続!?!」と驚かされていた杉本直美先生の「これからの読書活動と学校図書館の在り方」と題する講演は大変刺激的だった。

教育の動向の説明が大変クリアな言葉である。「今、何が言われていて、何のために、何を換えようとしているのか」という視点で捉えるべきであるという。先生曰く「現在の児童生徒は、厳しい挑戦の時代を生きていくことになる。だから、自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けるために、教育の在り方を一層深化させようとしている。」

読書活動の展開にあたって、最も重要なのは「成果の検証と整理」であると説く。これが、全体のアジェンダになっていた。

多くの地域で、様々に工夫された読書活動の取組が展開されている。ところが、読書活動に熱心な取組をしている一方、「取組をしないと読書から離れていく子ども」がいる状況を鋭く指摘する。大人側からの働きかけに頼っている子どもの姿や、どこかで自己満足に陥っている大人の姿が目に見えてきた。どんな成果が上がっているのかを、等身大でとらえる必要があるのだ。そこで、読書指導のポイントを2つ。「様々な取組の成果を検証・整理する」目的に応じたねらいの設定をすること、ねらいに応じた読書活動を設定することである。もう一つは「取組の見直しとその質のさらなる向上」を図ることであるという。

「読書という行為を広く捉える」という言葉にも刺激を受けた。例えば、先生や生徒自身が用意した資料を読む、教科書や補助教材を読む、友だちが活用している資料を探して読む、など、これらすべてが「読書」という行為である。その教科で必要な資料を読む、手持ちの資料から有効な資料を選んで読む、指摘された箇所を探して読む…確かにこれらは、立派な読書である。

「子ども自身が読書そのものについて、考える機会が少ないのではないか」という提言には、胸を打たれた。

本来、読書指導の目的は、自立した読み手の育成にあり、自らの目的や必要に応じて本を手に取り、そこにある情報を適切に活用し、自己の成長に役立てることのできる読み手の育成であると、杉本先生。先生はかねてから「読書生活デザイン力（読み手が自身の読書生活に目を向け、今までの在り方を振り返り、現状を捉え、これからの読書生活を自己の状況に照らしながら自覚的に考え、組み立てていく力）」を身に付けさせることを提案されている。

自分自身の読書生活の在り方を考えさせる読書指導が「自立した読み手」を育むことになる。自立した読み手とは、「子ども自身が読書の意義を実感しており、必要なときに本を手取る（様々な情報を有効に活用する）ことができる学び手」のことである。

胸に染みしたのは、何と言っても、杉本先生の読書ノートを取組である。先生の実践魂、教師魂が素晴らしい。成功の秘訣として3つポイントをあげていた。「最初の丁寧な指導（書き方を一緒に練習する）」「継続的な指導（書かせっぱなし、はんこで終わりはだめ）」「様々な場面で読書ノートを使う（役立つという実感をもたせる）」それに加え、最後に「コメントの内容（一歩先を歩ませるためのコメントの工夫）」をあげられた。生徒の心に灯をつけるのである。

個に応じた指導となること、これこそが読書指導の要諦だ。かけがえのない生徒の言葉と教師の言葉とが行き交う読書ノート。「読書ノート」を日々読書する、このことが、豊かで確かな子どもの学びをつくる。先生の著書である「はじめよう学校図書館7『読書生活をひらく「読書ノート」』にある、卒業生の言葉は、まさしく、「他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力」を身に付けた、成果の検証そのものである。

ご講演の終わり頃には、自分の心の中に灯がともった。「新たな価値を創造する学校図書館！」演題が我がこととなり、自校の学校課題に変わった1月6日であった。



## ■第48回 北海道学校図書館研修講座に参加して

## 毎日行きたくなる図書館を目指して

札幌市立藻岩中学校 学校図書館司書 藤原和美

この研修は今まで学校図書館ボランティアをしていて是非参加してみたいと思っていた研修講座でした。昨年の10月より札幌市の学校図書館司書として配置されてこの講座を受講する機会を持つことができ、とても嬉しく思っています。どの講座も魅力的でコース選びに苦心しました。今回の研修では学校図書館を運営していく上での図書館の在り方、読書の取り組みについて理解することが出来ました。

「成果を分析して次のステップへ」を念頭に読書活動を活発にしていきたいと思えます。また「自立した読み手」を増やし育てるために、まずは「毎日行きたくなる図書館」を目指して蔵書の構成を考慮に入れ、習ったポイントを押さえて資料選定をしていきたいと思えます。

「資料展示」の講座では今すぐにも取り入れたいコーナー作りの仕方が、盛り沢山あり、実習の資料展示の企画に於いてはテーマが同じでも切り口によって様々な広がりができる楽しさを実感いたしました。また改めてアピールすることの重要性を感じました。

「情報・メディアを活用する学び方」では紹介していただいた資料を参考にただ調べるだけでなくインターネットの活用・まとめ・評価ができるように司書教諭と連携して授業に係わっていききたいと思えます。

今回の研修講座に参加してみてたくさんの方々との情報交換ができ、学校図書館に携わるものとして活動するためのヒントや工夫を学びました。まだまだ勉強中ではありますが、少しでも実践できるように活動していきたいと思えます。

ご尽力してくださった皆様に感謝いたします。来年も是非参加したいと思えます。



## 支部だより

## ～帯広支部

帯広支部は会の名称を「帯広市学校公共図書館研究会」といい、市内小中学校の職員と帯広市図書館職員から構成されている組織となります。会には、事務局の下に研究部とコンクール部があり、「読書の喜びを知り、自ら学ぶ力を育てる学校図書館」の研究テーマのもと活動を進めています。研究部については「図書館担当者講習会」「学校図書館クリニック」「実務講習会」「授業研究」等を、コンクール部については読書感想文コンクールの審査及び表彰式、感想文集の発行を担当し活動を行っています。

平成27年度は、主に以下のような取り組みを行いました。

## ① 8月7日 「学校図書館クリニックin若葉小学校」

夏休みの午前中に研究会員、若葉小学校の職員、そして学校図書館ボランティアが集まり、クリニックを実施しました。若葉小学校の学校図書館はそれぞれが1教室分の広さをもつ1階の分館と2階の本館に分かれており、その使い方も含めて本研究会の帯広市立図書館司書からの提案をして、それに基づき配架に工夫を加えていきました。



## ② 1月22日 「学校図書館クリニックin緑丘小学校vol. 2」

平成18年から市内40校の小中学校向けに年間1～2校ずつ実施している学校図書館クリニックですが、緑丘小学校については、2回目のクリニックとなります。児童、担当職員、図書館ボランティアの要望をリサーチし、前回のクリニックの成果と課題を明らかにした提案をすることができました。

## ③ 1月28日 「図書館担当者交流会」

市内の司書教諭・図書担当者向けの交流会を開催しました。「帯広市学校図書館運営の手引き（平成27年度版）」を配布・説明し、各学校の学校図書館や図書ボランティア、司書教諭としての取組の実態交流や、運営上の悩み相談などを行いました。

次年度は、各中学校区内の児童会・生徒会図書委員の交流会、帯広市教育研究会（市教研）図書館教育部会と連携をした授業研究を計画しています。今後も、会員の工夫と協働により、学校図書館の機能を高め、テーマに向かって取り組みを進めていきたいと考えています。

文責：帯広市学校公共図書館研究会事務局長（帯広市立柏小学校 教諭） 兒玉 明日香

## ■第48回 北海道学校図書館研修講座に参加して

## 「授業」を通して伝えたい本の魅力

札幌市立手稲宮丘小学校 教諭 七 條 亜 樹

今回の研修講座では、これまでに行った授業の学び方指導、読書指導の「実践報告」という形で発表させていただきました。

子どもたちがより良い情報を得て比較・検討・選択し、それを活用して自分の考えを表現・発信できるようになるためにはどう指導したらよいかを考え授業づくりに取り組んできました。また、読書離れが叫ばれる中で必要な時に必要な本を手にとれるような子どもたちを育てられるよう日々の読書指導を行ってきました。その取り組みを発表させていただき、たくさんの温かい評価をいただけたことは本当に嬉しくありがたかったです。

現在の子どもたちを取り巻く環境を見てみると、ずっと本を読まないまま成長し大人になってしまうことが考えられます。何もしないと、本を手にしたたり、文字を読んだりすることが嫌いな子どもが増えてしまうと感じていました。それを防ぐためにも、国語の授業を通して、本に対する興味・関心をもつ機会、本と出会う場面をできるだけ多く作り、本との時間を多くもってもらいたいと考えました。そこで、今年度は、3, 4, 5年生で図書館を活用した授業づくりに取り組みました。発達段階に応じた学び方の指導を体系的に行うことができたことは今年度の大きな成果となりました。今後は、全校での取り組みについて



考えていくことが課題だと考えています。そのためにも、司書教諭や周りの先生方との連携し、学校図書館が教育課程の主役になれるような取り組みをしていきたいと思っています。

最後になりますが、参加してくださった方の話を聞いて、市町村での読書環境の充実に差を感じました。読書離れを解決していくためには、まず子ども自身が本を手にとることから始まると考えています。そのためにも是非ともすべての自治体で環境が整い、子どもの読書活動が推進されていくようになっていけばいいと願っています。

## ■第48回 北海道学校図書館研修講座に参加して

## 特別支援の子どもたちと学校図書館

名寄市立名寄東中学校 司書教諭 植 田 美保子

今回の研修講座の「校種別選択講座 討議 特別支援」で、実践報告ということで、発表させていただきました。今年の札幌は暖冬ということで、降雪量が少なく、比較的参加しやすい穏やかな年明けとなりました。

授業実践は、特別支援学級担当経験が浅い私の「自立活動」指導案で行った、つたない授業の報告となりました。普段、特別支援の授業実践を展開している方のいくつかの質問や、養護学校勤務の方の指導案づくりについてのアドバイスをいただきました。コミュニケーションを中心に据えた「調べ学習・慣用句カードづくり・班ごとの発表」の授業を、子どもたちの成功体験とともに終えることができたことに対して、「私も頑張らなきゃ！」と感想をいただけたことも含め、とてもありがたく、嬉しく思っています。

後半は、公立図書館の司書の方や、養護学校の方もいらっしゃる中、主な討議の柱を「特別支援の子どもたちと学校図書館～選書について～」とし、実際に選書・入荷している本や、今回指導案づくりや指導計画の中でも参考にさせていただいた旭川市教育研究会特別支援教育研究部「図書館バリアフリー研究部」の研究の中にあつた図書カードの活用等の話をしました。私が中学校担当ということもあり、養護学校でもある程度年齢が上の子どもたちの本に対する興味関心が、マンガやドラマや映画の原作本にある話などもお聞きすることができました。また、マンガや実用書は、流行すたりがあるため、子どもは「こんな古い絵、誰もみないよ」など敏感に反応するので、我々も情報を新しくして取り組まなければならないことを確認しました。

今回はこのような機会をいただき大変勉強になりました。参加、討議していただいた皆様、本当にありがとうございました。



第41回 平成27年度 青少年読書感想文全道コンクール

# 北海道指定図書

北海道の先生がおすすめする本

## 小学校低学年の部



**フレヨンからのおねがい!**  
ドリュー・デイウォルト/文  
オリヴァー・ジェファーズ/絵 木坂涼/訳  
ほるぷ出版 定価1,500円+税



**ええことするのは、ええもんや**  
くすのきしげのり/作 福田岩緒/絵  
えほんの杜 定価1,200円+税



**ゆきがくれたおくりもの**  
リチャード・カーティス/文  
レベッカ・コップ/絵  
ふしみさを/訳  
ポプラ社 定価1,480円+税

## 小学校中学年の部



**北加伊道**  
松浦武四郎のエソ地探検  
関屋敏隆/文・型染版画  
ポプラ社 定価1,600円+税



**先生、しゅくだいやすめました**  
山本悦子/作 佐藤真紀子/絵  
童心社 定価1,100円+税



**ぼくのニセモノをつくるには**  
ヨシタケシンスケ/作  
ブロンズ新社 定価1,400円+税

## 小学校高学年の部



**槍ヶ岳山頂**  
川端誠/作  
BL出版 定価1,600円+税



**ネルソン・マンデラ**  
カディール・ネルソン/作・絵  
さくまゆみこ/訳  
鈴木出版 定価1,900円+税



**ロード**  
キャンピングカーは北へ  
山口理/作 佐藤真紀子/絵  
文研出版 定価1,300円+税

## 中学生の部



**時速47メートルの疾走**  
吉野万理子/著  
講談社 定価1,400円+税



**ユキとヨンホ**  
白磁にみせられて  
中川なをみ/作  
船橋全二/絵  
新日本出版社 定価1,500円+税

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。  
詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。

●ホームページ

北海道学校図書館協会

検索

## 北海道の本を読みましょう!

第61回 青少年読書感想文全道コンクール/第41回 北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催/北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社 ■後援/北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会 ■選定協力/北海道読書推進運動協議会

## 学校図書館情報

### ◆平成28年度北海道学校図書館協会 定期総会の開催

- ・日時 平成28年5月7日(土) 14:00～
- ・場所 北海道立道民活動センター (かでの2・7) 1060会議室  
札幌市中央区北2条西7丁目  
各支部の総会参加をよろしくお願い致します。

### ◆全国学校図書館協議会各県事務局長会議開催

2月4日(木)東京の学校図書館センター(公益社団法人全国学校図書館協議会事務局)にて開催されました。北海道から門前会長、齋藤事務局長、黒澤理事長が参加しました。

2016年度活動方針事業計画、財政再建化計画について、全国SLA発行書籍の普及等についての報告がなされました。



更にはSLBAの参加促進について、各県の特段の協力をお願いしたい旨の説明や、課題図書や指定図書の普及のお願いもあり、いよいよ本年の開催となったIASL東京大会の組織委員会の事務局としての立場からの、森田理事長の参加要請の説明もありました。

翌日5日(金)午前の国会議員への要請活動では、「学校司書の配置促進、専任化の実現」「司書教諭の専任化・担当時間の確保、教育委員会による発令」「第五次の『学校図書館図書整備5か年計画』の策定」の三点を中心に、衆参両議員会館へ足を運び、地元である北海道選出議員にお願いをして参りました。

### ◆第58回北海道図書館大会のお知らせ

- ・日時 平成28年9月8日(木) 9日(金)
- ・会場 北星学園大学(図書館棟・B館)他
- ・参加者 公共図書館・公民館・大学図書館・学校図書館・専門図書館・市町村教育委員会等関係機関の職員・図書館協議会委員・図書館に興味のある方等
- ・大会テーマ「新しい力を持つ図書館～社会生活におけるパートナーとして～」

北海道学校図書館協会も構成団体の一つである、北海道図書館連絡会議が主催の大会です。北海道の図書館人が一堂に会する、年に一度の大会です。学校図書館関係者の多くのご参加を期待しております。

## 事務局

事務局長 齋藤 昇一(札幌市立藻岩中学校校長)  
TEL 011-571-6039  
FAX 011-572-3333  
事務局校 札幌市立平和通小学校  
事務局次長 野村 邦重  
〒003-0027 札幌市白石区本通15丁目北3-1  
TEL 011-863-0235 FAX 011-863-0265

## Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメンティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

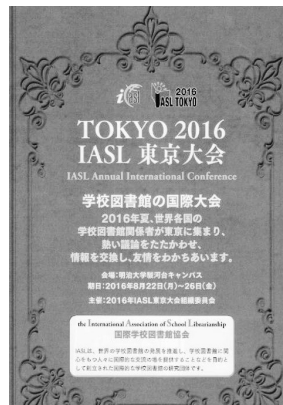
## キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15  
TEL (011) 857-3331  
FAX (011) 857-5211

### ◆2016 IASL東京大会の開催

学校図書館の国際大会が東京で開催されます。概要は以下の通りです。多くの方々にご参加頂くことを期待いたします。

- ・日時 2016年8月22日(月)～8月26日(金)
- ・会場 明治大学駿河台キャンパス
- ・参加費 全日参加 5万円  
全国大会(神戸大会)参加者は25,000円  
1日参加は5,000円
- ・発表 研究発表、実践発表  
ポスター発表 ワークショップ
- ・イベント 学校訪問 歓迎レセプション他
- ・詳細は全国SLAのHPで



### ◆第40回全国学校図書館研究大会 神戸大会のお知らせ

- ・日時 平成28年8月8日(月)～10(水)
- ・会場 【8日】神戸国際展示場2号館  
神戸学院大学ポートアイランドキャンパスB号館  
【9日・10日】  
神戸学院大学ポートアイランドキャンパスB号館
- ・参加費 6,500円

合計100以上の分科会が予定されています。分科会には部屋の都合上、定員があります。申し込みはインターネットにて、6月1日からの受付を予定しています。北海道からも多くの方々に参加されますことをご期待いたします。

## 編集後記

春の訪れが待ち遠しい季節となりました。読書感想画コンクールが、第3回目をむかえ、大変多くの応募をいただきました。来年度もさらに充実したものとなりますよう、関係各位のご協力をよろしくお願いいたします。

(編集: 杉本 操 村山 知成 野村 邦重)  
大久保雅人 齋藤 昇一

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>